

令和3年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会議事録

- 1 日 時 令和3年7月5日(月) 午後2時00分
- 2 会 場 トヨペット スマイルホール 大洗（大洗文化センター）大会議室
- 3 内 容

<事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、協議会委員の変更がございましたので、ご紹介させていただきます。

小美玉市教育委員会教育長 羽鳥 文雄 様です。

笠間市教育委員会教育長職務代理者 戸田 浩二 様です。

よろしくお願いいたします。

それでは、本日の進め方について確認させていただきます。

はじめに、学校教育法附則第9条の規定による教科用図書(特別支援学級教科用図書)、中学校用教科用図書 社会(歴史的分野)の審議を行います。その後、資料等の公開の対応について協議していただき、最後に諸連絡を行います。

それでは、「開会のことば」を 本選定協議会副会長 城里町教育委員会教育長 高岡 秀夫 様
お願いいたします。

<城里町教育委員会 高岡教育長>

～開会のことば～

<事務局>

ありがとうございました。

それでは、「教科用図書選定協議会会長あいさつ」 長谷川 馨 会長お願いいたします。

<会長>

第4採択地区第2回教科用図書選定協議会の開催に先立ちまして一言ご挨拶申し上げます。まずは小美玉市教育委員会教育長羽鳥様、笠間市教育委員会教育長職務代理者戸田様、ご就任おめでとうございます。初めての会議になるかと思いますが、よろしくお願いいたします。コロナ渦ではありますが、57年ぶりにオリンピックが開催されます。昨日はひたちなか市・大洗町で聖火リレーが行われ、無事に聖火がバトンタッチされました。賛否両論あると思いますが、開催によって士気を高めていければ良いのではないかと思います。千葉県の子供たちの痛ましい事故もございました。大洗町でも毎年通学路の安全点検を行っておりますが、今年度については早めに進めているところです。

本日2回目の協議会を開催させていただきますが、振り返りますと先月6月8日にスタートいたしまして、本来は特別支援のみの予定でしたが、中学校社会の歴史的分野も含め2部会の調査部会を開くこととなりました。6月11日から24日まで展示会を行い、14日間で15名の方にご来場いただきました。第4採択地区ではない市町村からもご来場いただいております、関心のある方々がいらっしゃるのだと感じました。6月21日から数回に分けて調査部会を開き、本日の協議会に至っております。

本日各部長より報告いただきますが、子供たちがわくわくするような教科書を選定し、来年度の授業の寄与になればと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきながら協議会を進めていけるようご協力をよろしくお願いいたします。本日は、よろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。

それでは採択についての審議・議決に移ります。採択についての審議は、本選定協議会規約第9条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。長谷川会長、よろしくお願いいたします。

<会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、教科ごとに審議及び議決していきます。教科の順番は、特別支援教育、中学校社会(歴史分野)の順で行います。各教科の議決までの流れでございますが、最初に調査部会からの報告をいただきまして、調査部会への質疑となります。各部長が報告をしますので、ご質問がある場合は質疑をお願いいたします。その後、部長が退席した後に、審議・議決をいただき、採択理由書の検討をしていただくという順で進めてまいります。

それでは、はじめに特別支援教育調査部会からの報告をいただきます。

調査報告書配付

特別支援調査部長入室

<会長>

それでは、特別支援調査部会の報告をお願いいたします。

<特別支援調査部長>

特別支援教育部会での調査内容についてご報告させていただきます。

まず、資料についてですが、別冊3は、令和4年度使用小中学校特別支援学級知的障害者用教科用図書の採択に関する参考資料ということで、茨城県教育委員会から出されているものです。本調査はこの資料を基にして実施いたしました。調査報告書として小学校用と中学校用にそれぞれA3版にまとめてありますので、そちらも併せてご覧ください。

では、具体的な説明に入らせていただきます。まず、別冊3の1ページをご覧ください。小・中学校等特別支援学級知的障害者用教科用図書の採択には「採択の原則」というものがございす。はじめに「採択の原則」の主な内容につきまして簡単にご説明させていただきます。

1番の(2)をご覧ください。学校教育法附則第9条の規定による教科用図書と書かれておりますが、その文の5行目に「毎年度異なる図書を採択することができる」と明記されております。このことにより、特別支援学級の教科用図書につきましては、毎年選定をし、採択していくということになっております。

次に(3)をご覧ください。特別支援学級において使用する教科用図書は、市町村教育委員会において「種目ごとに複数採択することとする」と明記されています。種目とは国語・算数・理科・社会といった教科を指しており、教科ごとに複数採択ができるように選定するということになっております。次に、(4)には「文部科学省著作教科書を採択する場合は、次の事項を基本とすること」とあり、いわゆる著作本といわれるもので、☆1つは小学校1年生、☆2つは小学校2年生、☆3つは小学校3年生から6年生までが使用するものとなっております。☆4つは中学校1年生が、そして令和3年度からは☆5つが加わり中学校2・3年生が使用するものとなっております。

続きまして、2の採択上の留意事項についてご説明いたします。1ページ一番下の(2)をご覧ください。採択地区においては、種目ごとに「基本型」に示すA型（障害の程度が比較的軽い児童生徒の場合）及びB型（障害の程度が比較的重い児童生徒の場合）を基本とし、教科用図書を選定することになります。

続いて(6)をご覧ください。「一般図書」とありますが、今ここに並んでいるものが一般図書といわれているものです。これは本屋さんで販売されているもので、図書館や学校の図書室にもおいてある書籍です。このような本の中から教科用図書となるものを選定してもよいということになっております。

次に、4ページをご覧ください。表の左側の種目の右に「A」「B」とありますが、「A」は「A型」といって障害の程度が比較的軽いお子さん、「B」は「B型」といって障害の程度が比較的重いお子さんに分かれております。

国語のところをご覧ください。「A」は検定と書かれていて1・2年生で矢印が引かれています。3年生は検下本といって1学年下の2年生の教科書を学習していきましょうという基本的な考え方があります。ただし、それよりも重いお子さんの場合は、☆本という絵や写真等が多く入っていて言葉（文字）が少なく、簡単な内容の教科書を選定しています。そのように、各教科によりA型B型のかたちが変わっておりますので、調査部会ではどのような教科用図書にするかを考えました。☆本については、国語と算数と音楽において☆本があり、それぞれの種目において、☆本での選定もできるようになっております。

中学校については6ページをご覧ください。こちらも種目ごとにA型B型に分かれております。このような形で小学校から中学校までの9年間の系統性を満たした基本の形が設定されておりますので、それに合わせて調査をしてまいりました。

次に、別冊のA3の資料をご覧ください。これは種目ごとのA型、B型において選定する際の観点や使用学年及び図書名、さらに内容に関しての調査員の意見をまとめた資料となっております。昨年度選定したものを再度、選択の際の観点や児童生徒の障害の実態に合ったものであるかという点も十分に踏まえながら調査をして参りました。一般図書に関しましては特に、在庫がなかったり絶版になったりして次年度供給が不可能となってしまうことがあります。令和3年度に使用しております、児童生徒の教科用図書が来年度もまだ使用できるかということを、全て出版社に問い合わせをして来年度も供給可能であるという確認をとらないと選択することができないということになっております。これにつきましては資料別冊3の2ページ(8)に記載されております。

そのような中で、小学校において今回新たに選んだ図書についてご説明させていただきます。

まず、理科においては、これまで使用していたフレーベル館の図書が来年度供給されないため選び直しました。「りかのこうさく 1ねん」が、大きめな絵と具体的な遊びの説明がされ、分かりやすくなっており、創作意欲をかき立てるようなものが掲載されているため選びました。また、「小学館の図鑑NEO〔新版〕星と星座」は、きれいな星空の写真がたくさん取り入れられており、視覚的にも理解しやすくなっています。さらに、この図鑑にはDVDが付いており、子供に人気のドラえもんと一緒に夜空を旅する構成になっており、興味を持って楽しく学習することができるかなと思っております。DVDが付いている「小学館の図鑑NEO〔新版〕科学の実験」も同じような理由で選びました。

家庭科では、これまで「裁縫」の内容に限定された図書が選定されていましたが、「衣食住」の内容がバランス良く盛り込まれ、写真やイラストが多く、視覚的に手順を追って分かりやすく説明されている山と溪谷社発行の「家庭科の教科書 小学校低学年～高学年」を選択しました。

体育では、理科と同様にフレーベル館のものが供給されないために、評論社の「しかけ絵本の本棚 からだのなかとそと」を選択しました。ご覧のとおり、体の一部をめくると体の仕組みと働きが、機能ごとに視覚的で理解しやすく、説明も分かりやすい言葉で表現されています。

次に、中学校の一般図書の選定に関してご説明申し上げます。

まず、社会科の地理的分野の図書については、今年度選定した本が来年度供給されないため、学研プラスの「読んで見て楽しむ 世界地図帳 増補改訂版」を選びました。この本は、イラスト入りの見やすい地図になっており、地形や特徴が分かりやすく説明されています。また、テーマ別にまとめられたマップが豊富に掲載されていて、様々な角度から楽しく分かりやすく興味を持って理解を深めることができます。同様な理由で、「日本地図帳」も選択いたしました。また、これまで選定していたひかりのくに出版の「辞書びきえほん歴史上の人物」を、漫画が豊富に描かれ、文字も大きく見やすい学研プラスの「まんがでぎゅぎゅっとまとめたかんたん日本の歴史」を選択しました。

次に理科においては、これまでの昆虫や魚などの飼育と観察の内容であったものを、「学研の図鑑LIVE植物」に替えました。これは、通常学級で使用する教科書に植物の内容があり、合わせたためです。この本の特徴としてはDVD付であるほか、専用アプリを入れてタブレット等

を使用すると3Dで立体的に見られ、ICT教育やGIGAスクール構想が進んでいる現在の教育にもマッチしていて、視覚的であるために理解がしやすいと思われます。

さらに、理科においては供給されない本が2冊あるため、「小学館の科学の実験」と学研プラスの「学研の図鑑LIVE 人体」を選びました。こちらも同じように、DVD付でタブレット使用が可能であり、生徒が興味・関心を持ちながら楽しく学習できるものと考えました。

美術においては、2冊供給がなくなるということで、文字の大きさや理解のしやすさ、素材や難易度、手法など様々な面から検討を行い、全てにおいて実践的な図書を選択しました。

体育においては、体を動かすことに対して苦手意識をもつ生徒もいらっしゃいますので、これまでは保健分野だったのですが、イラストが多く描かれ、姿勢や動きについての正誤が○×で表記されており、一目見て分かりやすい実技の本を選びました。

英語においては、少しでも英会話が楽しめるようにということで、くもん出版の「英語カード あいさつと話しことば編」を新たに選びました。これは日常のあいさつなど生活の中で使える基本的な会話表現のためのカードです。表に場面絵、裏に英文と日本語訳が書かれています。お手本の発音が収録されたCDも付いていて、楽しく英語の発音に親しむことができるようになっていと思っています。

最後に、職業・家庭の全国手をつなぐ育成会連合会の「自立生活ハンドブック 11 ひとりだち」は2021年改訂版が出版される予定であり、出版会社に問い合わせたところ、これまで掲載されていた法律が変わったための改訂であり、内容的には大幅な変更はないということでしたので、出版元にタイトル確認のうえ、記載いたしました。

以上のように、一般図書におきましては可能な限り、複数の教科用図書を選定したということと、在庫がなかったり絶版になったりして来年度、供給できないということがないかを出版社に問い合わせをして、供給可能である事を確認して選定いたしました。

最後になりますが、今回の調査に関しまして、不明な点や見本の供給などに丁寧に対応していただきました事務局の皆様に感謝申し上げます、以上で特別支援調査部会の報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。調査部会の説明及び報告をいただきましたが、ご質問の前に図書を実際に見ていただく時間を設けたいと思います。どうぞご覧ください。

～委員移動～

それでは、お戻りください。

～委員移動～

短い時間でしたが、実際に見ていただき、何かご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

「りかのこうさく 1ねん」と「あそびのひろば1 はんがあそび」は出版年が古く、今の子供

たちが見て新しさは無いと思うのですが、選択した理由はあるのですか。

<特別支援調査部長>

新しい図書で供給されるものがあれば替えることもできますが、県も引き続き参考図書としておりますので、今回は選ばせていただきました。

<会長>

よろしいでしょうか。

<委員>

はい。

<会長>

他にご質問はございますか。

<委員>

教科書にQRコードが掲載され、読み取るといろいろなものが見られるようになっていますが、☆本についてはどのようなになっていますか。

<特別支援調査部長>

手元にある☆本は最新のものですが、QRコードはございません。

<委員>

これからのデジタル環境の中で、☆本にもあると良いのかと思いました。また、DVD付の本をたくさん選択されていますが、教師用のタブレットと児童生徒のタブレットどちらで使用するのですか。

<特別支援調査部長>

DVDは1つの本に1枚しか付いていないので、使い方としては大きな画面に接続して見る形になるかと思います。

<委員>

分かりました。

<会長>

他にご質問はございますか。

<委員>

特別支援調査部会の考え方としては、視覚的にとらえやすいものを中心に選んだということによろしいですか。

<特別支援調査部長>

はい。

<委員>

タブレットを使用した学習で、いわゆる補助的な資料のようなものはダウンロードができる環境がこれから学校のなかでも整っていくと思います。その点の議論はされましたか。

<特別支援調査部長>

そこまでの議論まではいたしませんでした。

<委員>

総合的な判断としてタブレットと併用しながら、障害を持った子供たちが視覚的にとらえやすいものを選んだということによろしいですか。

<特別支援調査部長>

はい。やはり聞くよりも目で見た方が分かりやすいだろうという観点で選びました。

<会長>

特別支援については毎年の選定となっておりますので、より良いものを毎年替えていくことは大事だと思っています。引き続き調査をしていかなければならないことだと思います。先ほど委員さんからもあったように、古いものでも良いのか、それとも新しくなっていくのが良いのかなど、今後検討していかなければならないと思っております。他によろしいでしょうか。

それでは、調査部長さん、短期間での調査・研究、誠にありがとうございました。

特別支援教育調査部長退室

<会長>

それでは、ただ今より審議いたします。はじめに、委員の中でご意見のある方は挙手願います。異議はございませんか。

<委員>

毎年選定しておりますが、特別支援は前年度の図書が絶版になるなどし、無くなってしまうと

いうことがあるので、採して選んでいくのは大変だと思います。そういった中で選んでいただいたものなので、基本的にはこのような方向でよろしいかと思います。

<会長>

ありがとうございます。委員さんからもありましたとおり、本を採していくのは本当に大変なことだと思います。引き続き来年度も考えていかななくてはならないことだと思います。

それでは、調査部長の報告のとおり決定してよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし。

<会長>

それでは、報告のとおり決定いたします。

次に採択理由書について、これより検討してまいります。事務局で配付をお願いいたします。

採択理由書（案）配付

<会長>

こちらは、調査報告書をもとに事前に作成したものであります。この「採択理由書」について、何かご意見のある方は、挙手をお願いいたします。

無いようでしたら、採択の理由はこちらで決定してよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし。

<会長>

ありがとうございます。それでは、社会(歴史的分野)部会の報告に移ります。

調査報告書，教科用図書見本本配付

社会(歴史的分野)調査部長入室

<会長>

それでは、社会(歴史的分野)調査部会の報告を調査部長よりお願いいたします。

<社会(歴史的分野)調査部長>

今回「歴史的分野」で、新たに「自由社」の教科書を加えた8社について再度、調査を行い、

その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料をもとに、各教科書の良い点について、簡単に説明させていただきます。

各社とも、章ごとに見開き2ページを割いて、学習する時代の様子をイラストで紹介したり、年表を掲載して見通しをもって学習できるような工夫がみられました。さらに、コラムを設けて、歴史上の人物を含めた歴史に関する事象に関心をもち、発展的な学習に取り組めるような配慮が見られます。また、1時間ごとの学習課題が明確に掲載されており、課題解決学習を進めるにあたって手立てが講じられています。

続きまして、次の2社の教科書について、さらに説明を加えさせていただきます。

まず、「自由社」ですが、各章の導入で提示された資料が、歴史に関わる事象の様子や変化、広がり分かるように工夫されています。見開きのページごとに通し番号が示されているため、全体を捉えやすくなっています。偶数のページの下には「歴史モノサシ」が載せられており、現在、学習している時代を分かりやすくしています。写真や絵、読み物資料などの多様な資料に加え、吹き出しを使って本文の記述とは異なる視点を示し、多面的・多角的に考察する力を養うように配慮されています。毎時間の学習後に挑戦することができるワンポイントの課題「チャレンジ」を設定されており、新たな問いを生み出せるような工夫が見られます。各章末には「1 調べ学習のページ」、「2 復習問題のページ」、「3 時代の特徴を考えるページ」、「4 対話とまとめ図のページ」があり、時代の特徴を大掴みに捉えながら、章のまとめができるようにしてあります。関連のあるコラムとして、「もっと知りたい」、「人物クローズアップ」、「外の目から見た日本」の3種類が歴史的背景に即して数多く紹介されています。古代と近代に多くのページを充てており、日本の国の成り立ちと、近代日本の建設について学習が深まるような特色が見られます。

続きまして、「東京書籍」ですが、各章の始めに、必ず小学校で学習したことを年表や図等を通して振り返り、探求のステップを通して探求活動の課題解決へ繋がるように構成されている点に工夫が見られます。巻頭で、歴史上の出来事をイラストで掲載し、小学校からの歴史学習を想起しながら、日本の歴史の大きな流れを大観できるようにしています。各時代の分量がバランスよく取り上げられており、各時代の特色を大観して捉え、多面的・多角的に考察し表現できるような特色が見られます。「もっと歴史」のページや「スキル・アップ」コーナーが設定してあり、情報を収集したり、読み取って効果的にまとめたりするなど、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する力を養えるような工夫が見られます。単元末での時代の特徴をとらえる学習では、単元ごとにXチャート、ステップチャート、マトリックスの活用などの多様なまとめ方で構成されており、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫が見られます。本文の学習内容を基に、異なる視点や立場で捉えるために「みんなでチャレンジ」のコーナーを設けて、対話的な学習を促す配慮がされています。全体として年表スケールが各ページに掲載してあり、学習している時代や年代を確認しやすくなっています。また、「分野関連マーク」「教科関連マーク」を取り入れ、他分野・他教科との関わりが示されています。目次の前に国宝、重要文化財、世界遺産の写真を掲示し、生徒の意欲を高めようとしていたり、持続可能な社会の実現に向けての観

点が示されていたりするのも「東京書籍」の特徴であると感じております。

以上この2社について説明を加えさせていただきました。よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。昨年度は「東京書籍」を選定させていただきましたが、今回また採択替えという形で、8社からゼロベースで協議をさせていただきます。部長さんからは昨年度の「東京書籍」と今年度新たに加わった「自由社」について詳しく報告をしていただきました。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

事務局に確認です。採択替えを行った場合、既に「東京書籍」の教科書で授業が進んでいますが、教育課程の編成上、教科書を新たに替えて配付するのは見通しとして9月以降になるのですか。

<事務局>

来年度の教科書の選定・採択ということになりますので、採択替えとなった場合、来年度4月からとなります。

<委員>

年度途中で替わるということは無いのですね。

<事務局>

はい。今年度中からではなく、来年度からのスタートということになります。

<委員>

昨年度「自由社」以外の7社で検討したところ1番ベストは「東京書籍」となったわけですね。そうすると「東京書籍」を超えるものが無いと替えるということにはなりませんよね。

<委員>

「自由社」は古代と近代が多いのですね。

<社会(歴史的分野)調査部長>

ものすごく多いというわけではありませんが、比較的多いですね。

<委員>

1つの物事に対していろんな考え方がありますよという広さといいますか、多様な考え方でい

うと2社で違いはありましたか。

＜社会(歴史的分野)調査部長＞

例えば今テレビで放映されている「青天を衝け」は尊王攘夷のあたりと思いますが、「自由社」は160ページ、「東京書籍」は164ページがその内容に当たります。「自由社」は歴史的なこの事象を追うような形で進んでいきますが、「東京書籍」はその事象に応じてその当時生活をしてきた人たちがどういう風に関わって影響を受けていくのかというところを載せています。当時そこに生きていた人たちにも目を向けているということから、やはり多様な考え方となりますと、こちらのほうが子供たちにはすんなり入るのでないかなという感じがします。

＜委員＞

昨年は「自由社」の教科書が無い状態で、調査員の方々に調査していただき、その中でも推薦したい教科書を2点出していただいて協議しました。今年は調査員の方に調査していただいた中で、最終的に残ったのがこの2点「東京書籍」と「自由社」ということでしょうか。

＜社会(歴史的分野)調査部長＞

いえ、違います。今回新たに「自由社」が加わったため、昨年「自由社」について説明できなかった部分を今回説明させていただきましたので、この2点の比較というわけではございません。新しく入った教科書を今回はご説明いたしました。

＜会長＞

2冊の比較というわけではなく、ゼロベースですべての教科書を調査いただき、昨年選んだ「東京書籍」と今回新たに加わった「自由社」について説明をいただきました。

他にご質問等がございますか。

よろしいでしょうか。調査委員の皆様には短期間にもかかわらず、調査研究いただき、ここまでの資料をまとめていただいたことを感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

社会(歴史的分野)調査部長退室

＜会長＞

それでは、ただ今より審議いたします。はじめに、委員の中でご意見のある方は挙手願います。

＜委員＞

昨年は「自由社」が無い中で調査していただき、その中から「東京書籍」を選定しました。今年は「自由社」も含めてゼロベースで調査していただき、「東京書籍」と「自由社」について詳しく報告いただきましたが、多角的な視点で書かれているという点では「東京書籍」というお話

がありましたので、そのような方向で良いのかなという気がいたします。

<会長>

ただいま委員さんのご意見をいただきましたが、他の皆様はいかかでしょうか。

社会(歴史的分野)は「東京書籍」の教科書を選定するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし。

<会長>

ありがとうございます。それでは「採択理由書」について、検討していきたいと思います。事務局で配付をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

こちらの「採択理由書」について、何かご質問ご意見のある方は、挙手をお願いいたします。

<委員>

今回の採択理由については、おおよそ理解できました。昨年度の採択理由書と今回の理由書で相違点はございますか。

<事務局>

理由書の最後の段落が今回新たに加わった文章となっております。

<委員>

了解いたしました。

<会長>

他にございますか。採択の理由はこれで決定してよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし。

<会長>

ありがとうございます。それではこの理由書で決定とさせていただきます。

続きまして、小学校用教科用図書及び社会(歴史的分野)を除く中学校用教科用図書について確認させていただきます。義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同施行令により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、特に事情がない限り4年となっております。

小学校用教科用図書は令和2年度から、中学校用教科用図書(社会(歴史的分野)を除く)は令和3年度から採択されておりますので、現時点では特段の事情がないと思われますので、令和4年度は今年度と同じものを採択することとなります。何かご質問等はございますか。

よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、令和4年度も引き続きこちらの選定結果とさせていただきます。

続いて、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局より説明をお願いします。

<事務局>

公表について、協議会規約の「第5章 議事録及び資料の公表」をご覧ください。情報開示については、第14条の通りでございます。公表に関しては、第15条に定められていますように、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、第12条の第2項の資料、協議会の会議の議事録となります。

この公表については、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由は、データで各教育委員会に送付させていただき、それぞれの教育委員会ホームページ上に掲載していただくことをお願いしたいと考えております。それから、調査報告書及び会議の議事録は、事務局である大洗町教育委員会のホームページに掲載することで考えております。

また、会議の議事録に関しては、大洗町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をしていただき公開したいと考えております。そのため規約には速やかにとありますが、当該教科用図書の種類等の公開よりは、やや遅くなると思いますので、ご承知いただけましたら幸いです。

事務局からの説明は以上でございます。ご審議の程よろしく願いいたします。

<会長>

事務局より、公開についての説明がありました。教科用図書の種類については各教育委員会へアップをお願いし、資料、協議会の議事録については、事務局である大洗町でアップすることです。そのようなことでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

ありがとうございます。異議がないようですので、公表についてはそのようにさせていただきます。

以上で全ての審議を終了いたします。その他、何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、以上で議事を終了いたします。事務局へ進行をお戻しいたします。

<事務局>

長谷川会長ありがとうございました。それでは、事務局より要項にございます今後の予定について説明いたします。

<事務局>

各市町の教育長様には、各市町教育委員会へ本日の結果についてご報告をお願いいたします。今回、選定されました教科用図書一覧表のデータを、後ほど各市町の事務局に電子メールで送信いたします。議決内容につきましては、7月26日(月)までに、各市町教育委員会から議決を受けいただきますようお願い申し上げます。なお、議決が済みましたら、採択教科用図書一覧表を事務担当者にお渡しいただきたく存じます。同じく26日(月)までに、各市町の議決の報告を文書で大洗町教育委員会学校教育課宛に報告願います。文書による報告が遅れる場合は、議決した旨、FAXにて連絡をいただきますようお願いいたします。最後に本日の資料ですが、教育長様のみ各市町教育委員会保管用として、お持ち帰りいただきますので、お帰りの際にお渡しいたします。以上です。

<事務局>

よろしいでしょうか。それでは、「閉会のことば」を 本選定協議会副会長 笠間市教育委員会教育長 小沼 公道 様お願いいたします。

<笠間市教育委員会 小沼教育長>

～閉会のことば～

<事務局>

ありがとうございました。

閉会時間 午後3時10分